（火）第3種郵便物認可　市民新聞グループ　岡谷市民新聞・下諏訪市民新聞・諏訪市民新聞・茅野市民新聞・たつの新聞・みのわ新聞・南みのわ新聞共通版

おんばしら

視覚障害者をエスコート

「おやじの出番」が奉仕

茅野市ボランティアグループ「おやじの出番」（伊東俊夫代表、十人）は、障害者と御柱祭に参加するミニドリームツアーを企画。視覚障害者三人と前宮三の曳行に挑戦した。

「めど係は赤い服に黒い前掛け、空色の鉢巻きをしているよ」など周りの状況を丁寧に説明して祭りの雰囲気を味わってもらった。参加した牛山紀一さん（七〇）＝ちの本町＝は「こんなに近くに御柱を感じるのは初めて。柱を触ったが、やっぱり大きかった」と感激していた。

おんばしらの主役はパパだけじゃない！

「矢ケ崎恋」華麗にデビュー

「お父さんをバックアップして自分たちも祭りに参加して楽しみたい」と、前回の小宮祭で結成。地元の祭りで活躍してきたが、上社里曳きに向けて三月から週一で練習を始め、直前の一週間は毎日練習に励んだ。

宮坂代表ら二、三人

「すごいエネルギー」

ピアニストの久元祐子さんも大感激

全国各地でコンサート活動をするピアニスト、久元祐子さん（東京都新宿区）＝右から二人目＝は初めて御柱祭を見物に訪れた。「エネルギーがすごい」と驚いた表情だった。

二〇〇七年から毎年コンサートで共演し、親交を深める諏訪響の丸茂洋一理事長、写真家の林壽彦さんから誘われ、五日（水）県内で開くコンサートを前に諏訪に立ち寄った。

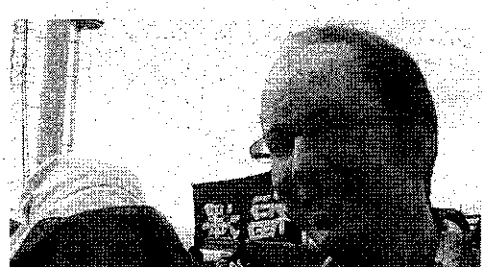
はっぴに身を包み、桟敷席から丸山さんらと一緒に本宮の柱の曳行を観覧。「大感激。リフレッシュして元気をもらった。ピアノの演奏に生かしたい」と話していた。

下馬した殿様は人力車で移動

下諏訪の諏訪湖浪漫（ろまん）会が初出張

下諏訪町内を拠点に人力車を走らせる「諏

即席ステージで氏子の士気を鼓舞

本宮四

本宮の御柱最終の曳行となった本宮四の北山・米沢・湖東の氏子たち。午後からさらに